

平成 31 年 2 月 4 日

広島県立福山葦陽高等学校 御中

一般社団法人アンマー
就労移行支援シェル
管理者 貝畑 明典

困り感のある生徒へのキャリア教育支援体制 12 月・1 月報告

拝啓 余寒の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。日頃は大変お世話になっております。さて、当事業所昨年 12 月より本格的な表題取り組みについての状況について下記の通り報告させていただきます。

また、当事業所の取り組みなども合わせてご報告させていただきますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

敬具

記

受け入れ生徒：■■■■■■■さん(17 歳 2 年生)

福祉申請状況：11 月下旬に福山市に就労移行支援サービス利用受給者証申請

* 18 歳未満のため福山市より東部こども家庭センターよりみなし認定申請

2 月 6 日にシェルにて福山市認定調査予定。

利用状況 :12 月出勤日数 7 日 工賃相当支給額 8,400 円

1 月出勤日数 9 日 工賃相当支給額 10,800 円

本利用前においては、決まった日に来ることの習慣づけを最優先に、主にタブレットを利用したゲーム、靴下端材を利用した手芸、パソコンを利用したゲームなどを取り組んでいただきました。

通所当初は、休憩室を利用して他の利用者の方とは別の場所での取り組みでしたが 1 月についてはほかの利用者と同様の作業室と徐々に移行しています。

12 月最後の週について、出勤予定について口頭でのやりとりのため、再守備についての認識に相互で誤解が発生することもあり、出勤日等については書面にて通知するよう改めて変更しました。

1 月最終週にて面談をしたところ、近くのスーパーでのアルバイトをしたいとの申し出があり、福祉制度のことや履歴書等の支援などの話をし、事業所と学校での協議の上進め方を考えましようとお伝えしています。

今後の方針等 :アルバイトについては、今回は挑戦しても良いかと考えております。現時点で福祉としての目的などをお伝えしても、家族の方を含め対応が難しい状況下と思慮しております。アルバイトを挑戦し、もし困難性により継続できない状況を想定した支援体制の構築が好ましいと、当事業所での支援会議での意見となっております。今回は、通所に慣れてもらうことを主眼に置き、事業所との相互

の信頼性について醸成が遅れてしまった点は反省すべきと考え、アルバイトへの取り組み状況にもよりますが、アルバイトの面談及びアルバイ採用された場合の支援を継続し、現在本利用の方対象に取り組んでいる「認知行動療法」を中心とした面談ベースでの支援体制を提案させていただく予定です。

そのために支援員の増員を2月より実施しています。

正社員:就労支援員【保育士資格・介護福祉士資格】

サポートスタッフ:就労支援員【教員】

以上